

看護学教育カリキュラムにおける基礎教育科目の検討1

—看護系大学のシラバス調査からのカリキュラムの考察—

佐藤亜月子 神原裕子 石光芙美子 上田昇
マービンスミス 堤千鶴子 関根龍子

(Atsuko SATO Yuko KANBARA Fumiko ISHIMITSU Noboru UEDA
Marvin SMITH Chizuko TSUTSUMI Ryuko SEKINE)

【要約】

基礎看護教育は、人間性を豊かにし幅広い知識や総括的に考えられる教育を求めていることはいままでもない。本研究は、基礎教育科目カリキュラム検討資料を得る目的で、シラバスから看護系大学の基礎教育科目の現状を明らかにしたものである。調査は、2009年の時点で開学後4年以上経過している大学125校中から、乱数表を用いて設置主体別に選出した看護系大学合計60校に調査依頼し、シラバスの郵送があった44校を対象に行った。

その結果、設置主体別で比較すると、国立で全開講科目数、基礎教育科目（単位）が多かった。私立大学では、全開講科目数、基礎教育科目（単位）が少なく、基礎教育科目の選択要件は高い傾向にある。このことから国立大学では幅広い分野から学習でき、豊かな人間性を養える教育環境であることが推測された。基礎教育科目を比較した結果、開講科目は人文社会系の科目が多くを占めた。本学は、基礎教育科目の選択科目が多く、多くの科目から選択することが可能であるが、基礎教育科目選択要件が低い傾向にある。幅広い知識をもち広い視野から物事を考える上で、基礎教育科目が重要であることを学生が理解できるようなカリキュラムの工夫が必要である。

キーワード：カリキュラム、基礎教育科目、看護系大学、シラバス、基礎看護教育

I. 研究背景

少子化や大学進学率の上昇により、大学・短期大学への志願者数に対する入学数の割合は92%に達しており、社会では大学全入時代が到来したといわれる。大学における人材育成は、社会のニーズに対応できるよう、カリキュラムを改正してきた経緯がある。「学士課程教育の構築に向けて」¹⁾によると、「学士課程教育の主要な特徴の一つである教養教育では、専門分野の枠を超えて共通に求められている知識や思考法等の知的な技法の獲得の他、人間としての在り方や生き方に関する深い洞察、現実を正しく理解する力の涵養に努めることが期待されている」と述べられており、大学において専門知識はもとより、人間性を豊かにし、幅広

い知識や総括的に考えられる教育を求めていることはいままでもない。また平成20年に「看護基礎教育のあり方に関する懇談会 論点整理」²⁾では、看護職に求められる資質として、「人間、生活、社会に対する理解力」を高めるための「豊かな一般教養」の習得が必要であり、看護は人に接する職業であるため、「豊かな人間性、包容力、人としての成熟」が求められていると述べられており、看護学基礎教育カリキュラムにおいて、専門分野を超えて広い視野で考えることができるよう、基礎教育科目を充実したカリキュラムは必須であるといえる。

目白大学看護学部のカリキュラムでは、基礎教育科目が43科目開講され、「人間理解を深め、人間の文化

さとうあつこ：看護学部看護学科
かんばらゆうこ：看護学部看護学科
いしみつふみこ：看護学部看護学科
うえだのぼる：看護学部看護学科

マービンスミス：看護学部看護学科
つつみちづこ：看護学部看護学科
せきねりゆうこ：看護学部看護学科

と生活を豊かにするための教養科目や国際社会に対応できるための基礎となる科目を学習する」ことにその目的を置いている。この目的に沿って学習することで、幅広い豊かな人間性を育むことができ、専門分野の学習にも発展することが期待される。

しかし、現状は必修科目以外の基礎教育科目を履修する学生が極端に少ない。理由として、基礎教育科目は、看護学のような実学とは性格を異にしているため、直接的なつながりが少なく、学生はその重要性が理解しにくいと考えられる。そこで、学生が基礎教育科目を学習する意味を自ら自覚し、専門領域の学習に発展させられるようなカリキュラムを検討することが必要と考える。

基礎教育において、看護系の専門科目について調査した報告³⁻⁵⁾はあるが、基礎教育科目をシラバスから調査した資料は少ない。

そこで本研究は、目白大学のカリキュラムを検討する目的で、開学から4年以上経過している全国の看護系大学を対象に、シラバスから基礎教育科目の現状を調査したので報告する。

II. 研究目的

本研究は、目白大学のカリキュラムを検討するための資料を得る目的で、看護系大学における基礎教育科目の現状を調査することを目的とする。

III. 研究方法

1. 対象

調査対象は、全国の看護系大学で、2009年の時点で開学後4年以上経過している大学125校を抽出し、乱数表を用いて選出した国立大学、公立大学、私立大学各々20校、合計60校である。

2. 調査方法

各大学の学部責任者あてにシラバスを送付してもらうように文書にて依頼し、各大学のシラバスを郵送してもらった。このうちホームページ上に公開されたシラバスの利用の承諾を得た大学については、当該ファイルをダウンロードし、シラバスを分析した。

3. 分析方法

収集したシラバスから、設置主体別に卒業要件、全開講科目数、選択科目数、基礎教育必修科目(単位)、

基礎教育選択科目(単位)、基礎教育科目選択要件(単位)の平均値、標準偏差、最小値、最大値を算出し、比較検討した。基礎教育科目選択要件とは、卒業要件を満たすために基礎教育科目から修得しなければならない単位である。

基礎教育科目は、各大学の開講している基礎教育科目を人文社会系(社会・人文・生活)、理系(自然・環境)、語学、スポーツ、情報、その他として、項目ごとに該当する科目を分類し、さらに設置主体別に開講科目が占める割合を算出した。看護専門科目が基礎教育科目に混在し記載してある科目は、研究者間で検討し分類した。

IV. 結果

1. 対象の概要(表1)

シラバスの返送があった大学は44大学(回収率73.3%)で、その設置主体は国立16校、公立14校、私立14校であった。

内訳は、単科大学が9校、総合大学が35校であり、総合大学における学部の内訳は、2~5学部が14校、6~10学部が8校、11~15学部が3校であり、学部数が不明であったのが10校であった。

表1 対象の概要 N = 44

項目	n	
設置主体	国立	16
	公立	14
	私立	14
大学の種類	単科	9
	総合	35
	2-5学部	14
	6-10学部	8
	11-15学部	3
詳細	学部数不明	10

2. 設置主体別における卒業要件、全開講科目、選択科目、基礎教育科目の比較(表2)

設置主体別に卒業要件(単位)、全開講科目数、選択科目数、基礎教育必修科目(単位)、基礎教育選択科目(単位)、基礎教育選択要件(単位)を比較した。

卒業要件(単位)の平均は、国立大学で 130.2 ± 6.4 単位で、最小値は125単位、最大値は145単位であっ

た。公立大学では、平均は 127.0 ± 3.9 単位で最小値は120単位、最大値は131単位であった。私立大学では、平均は 130.0 ± 4.6 単位で最小値は124単位、最大値は138単位であった。

全開講科目数の平均は、国立大学で 149.0 ± 89.0 科目、最小値は91科目、最大値は357科目であった。公立大学では、 134.2 ± 28.3 科目、最小値は100科目、最大値は211科目であった。私立大学は 133.9 ± 38.4 科目であり、最小値は94科目、最大値は234科目であった。

選択科目数の平均は、国立大学で 46.5 ± 27.4 科目であり、最小値は22科目、最大値は107科目であった。公立大学では、 58.1 ± 29.4 科目であり、最小値は28科目、最大値は129科目であった。私立大学では、 52.6 ± 37.2 科目、最小値は19科目、最大値は153科目であった。

基礎教育必修科目（単位）の平均は、国立大学で 28.5 ± 26.6 単位であり、最小値は8単位、最大値は90単位であった。公立大学では、 13.3 ± 9.9 単位であり、最小値は2単位、最大値は38単位であった。私立大学では、 18.8 ± 12.5 単位であり、最小値は4単位、最大

値は41単位であった。

基礎教育選択科目（単位）の平均は、国立大学で 65.3 ± 61.0 単位で、最小値は2単位、最大値は148単位であった。公立大学では、 46.5 ± 22.7 単位であり、最小値は8単位、最大値は78単位であった。私立大学では、 26.5 ± 20.9 であり、最小値は3単位、最大値は76単位であった。

基礎教育科目選択要件（単位）の平均は、国立大学で 5.3 ± 5.7 単位であり、最小値は2単位、最大値は12単位であった。公立大学では、 10.0 ± 2.8 単位で、最小値は8単位、最大値は14単位であった。私立大学では、 14.0 ± 8.3 単位であり、最小値は6単位、最大値は24単位であった。

3. 単科と総合大学での比較（表3）

単科大学と総合大学で、卒業要件（単位）、全開講科目数、選択科目数、基礎教育必修科目（単位）、基礎教育選択科目（単位）、基礎教育科目選択要件（単位）を比較した。

卒業要件（単位）の平均は、単科大学で、 126.5 ± 4.4 単位で、最小値は120単位、最大値は132単位であ

表2 設置主体別の基礎教育科目の卒業要件、科目数の比較

	卒業要件 (単位)	全開講科目数	選択科目数	基礎教育科目 必修科目 (単位)	基礎教育科目 選択科目 (単位)	基礎教育科目 選択要件
国立 (n = 16)						
Mean \pm SD	130.2 ± 6.4	149.0 ± 89.0	46.5 ± 27.4	28.5 ± 26.6	65.3 ± 61.0	5.3 ± 5.7
最小値—最大値	125—145	91—357	22—107	8—90	2—148	2—12
公立 (n = 14)						
Mean \pm SD	127.0 ± 3.9	134.2 ± 28.3	58.1 ± 29.4	13.3 ± 9.9	46.5 ± 22.7	10.0 ± 2.8
最小値—最大値	120—131	100—211	28—129	2—38	8—78	8—14
私立 (n = 14)						
Mean \pm SD	130.0 ± 4.6	133.9 ± 38.4	52.6 ± 37.2	18.8 ± 12.5	26.5 ± 20.9	14.0 ± 8.3
最小値—最大値	124—138	94—234	19—153	4—41	3—76	6—24
目白大学	130	110	37	18	52	6

表3 単科と総合大学の基礎教育科目の卒業要件、科目数の比較

	卒業要件 (単位)	全開講科目数	選択科目数	基礎教育科目 必修科目 (単位)	基礎教育科目 選択科目 (単位)	基礎教育科目 選択要件
単科 (n = 9)						
Mean \pm SD	126.5 ± 4.4	135.1 ± 42.0	41.7 ± 20.0	23.1 ± 14.5	37.3 ± 29.9	17.0 ± 9.8
最小値—最大値	120—132	98—234	19—76	8—41	4—78	10—24
総合 (n = 25)						
Mean \pm SD	130.8 ± 5.5	149.1 ± 62.2	62.0 ± 30.2	16.6 ± 11.2	47.5 ± 46.3	9.2 ± 2.6
最小値—最大値	125—142	91—357	22—129	2—121	2—148	8—14

った。総合大学は 130.8 ± 5.5 単位であり、最小値は125単位、最大値は142単位であった。

全開講科目数は、単科大学で 135.1 ± 42.0 科目で最小値は98科目、最大値は234科目であった。総合大学は 149.0 ± 62.2 科目であり、最小値は91科目であり、最大値は357科目であった。

選択科目数は、単科大学で 41.7 ± 20.0 科目であり、最小値は19科目、最大値は76科目であった。総合大学は 62.0 ± 30.2 科目であり、最小値は22科目、最大値は129科目であった。

基礎教育必修科目(単位)は、単科大学で 23.1 ± 14.5 単位であり、最小値は8単位、最大値は41単位であった。総合大学では、 16.6 ± 11.2 単位であり、最小値は2単位で、最大値は38単位であった。

基礎教育選択科目(単位)は、単科大学で37.3単位であり、最小値は4単位、最大値は78単位であった。総合大学では、 47.5 ± 46.3 単位であり、最小値は2単位で、最大値は148単位であった。

基礎教育選択要件(単位)は、単科大学で 17.0 ± 9.8 単位であり、最小値は10単位、最大値は24単位であった。総合大学では、 9.2 ± 2.6 単位であり、最小値は8単位で、最大値は14単位であった。

4. 基礎教育科目の開講状況(表4)

基礎教育科目がシラバス、および各大学のweb上で確認できる大学38校を分析対象とした。人文社会系(社会・人文・生活)、理系(自然・環境)、語学の科目が占める割合は、人文社会系が全体の50.0%(20科目)を占め、理系が20.0%(8科目)、語学が30.0%(12科目)を占めた。

次に看護系大学における科目の傾向を知るために、人文社会系(社会・人文・生活)、理系(自然・環境)、語学スポーツ、情報、その他の項目ごとに、項目に該当すると思われる科目を分類した。

1) 人文社会系の科目(社会、人文、生活)について看護系大学における人文社会系科目の内容は、「哲学」「心理学」「社会学」「教育学」「法学」「生命倫理学」「文化人類学」「文学」「経済学」「経営学」「政治学」「国際社会」「生活」「女性」「芸術」「歴史」「言語学」「考古学」「地理」「宗教」に関連する科目であった。開講科目率の上位5科目と科目名は、1.「社会学」86.8%(33校)、科目名は、「社会学」「人間と社会」「社会関係と自己」「現在社会の構造」「社会の構造と機能」「医

療社会学」「社会の認識」、2.「心理学」84.2%(32校)、科目名は「心理学」「心理学の基礎」「心と行動」「人の行動と心理」「人間の心理」、3.「法学」81.6%(31校)、科目名は「法学」「日本国憲法」「法律の役割」「法と人間」、4.「哲学」78.9%(30校)、科目名は「哲学」「哲学概論」、5.「倫理学」76.3%(29校)、科目名は、「倫理学」「生命倫理」「自由と倫理」「倫理的思考」「倫理と人間」であった。

設置主体別に比較すると、国立大学での上位3位の科目は、「社会学」が90.0%(9校)、「心理学」80.0%(8校)、「哲学」80.0%(8校)、「法学」80.0%(8校)、「芸術」80.0%(8校)であった。公立大学での上位3位の科目は、「社会学」92.9%(13校)、「哲学」92.9%(13校)、「法学」92.9%、「倫理学」92.9%(13校)であった。私立大学での上位3位の科目は、「心理学」92.9%(13校)、「社会学」78.6%(11校)、「法学」71.4%(10校)、「倫理学」71.4%(10校)であった。

2) 理系の科目(自然、環境)について

看護系大学における理系の科目の内容は、「化学」「生物学」「物理学」「環境」「数学」「生態学」「地球」に関連する科目であった。開講科目率は、「生物学」68.4%(26校)、科目名は「生物学」「生物学入門」「化学」60.5%(23校)、科目名は「化学」「化学入門」「化学と人間」「環境」60.5%(23校)、科目名は「環境学」「21世紀の環境問題を考える」「環境と生活」「生活と自然環境」「環境問題と健康問題」「環境マネジメント総論」であった。

設置主体別に比較すると、国立大学での上位3科目は、「生物学」70.0%(7校)、「化学」70.0%(7校)、「物理学」70.0%(7校)であった。公立大学での上位3位の科目は、「科学」78.6%(11校)、「化学」71.4%(10校)、「環境」64.3%(9校)であった。私立大学での上位3位の科目は、「生物学」78.6%(11校)、「化学」64.3%、「環境」57.1%(8校)であった。

3) 語学の科目について

看護系大学における語学の科目内容は、「英語」「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「韓国語」「朝鮮語」「日本語」「ロシア語」「スペイン語」「ギリシャ語」「ラテン語」「イタリア語」であった。開講科目率の上位5科目は、「英語」が100%(38校)、「ドイツ語」65.8%(25校)、「中国語」65.8%(25校)、「フランス語」50.0%(19校)、「韓国語」42.1%(16校)であった。

設置主体別に比較すると、国立大学での上位3位の

表 4 設置主体別の基礎教育科目内容

	国立 (n = 10)		公立 (n = 14)		私立 (n = 14)		全体 (N = 38)	
	n	%	n	%	n	%	N	%
文系科目 (社会・人文・生活)								
心理学に関連する科目	8	80.0	11	78.6	13	72.9	32	84.2
教育学に関連する科目	6	60.0	7	50.0	9	64.3	22	57.9
哲学に関連する科目	8	80.0	13	92.9	9	64.3	30	78.9
社会学に関連する科目	9	90.0	13	92.9	11	78.6	33	86.8
法学に関連する科目	8	80.0	13	92.9	10	71.4	31	81.6
経済学に関連する科目	6	60.0	11	78.6	9	64.3	26	68.4
政治学に関連する科目	5	50.0	5	35.7	5	35.7	15	39.5
経営学に関連する科目	2	20.0	2	14.3	0	0.0	4	10.5
倫理に関連する科目	6	60.0	13	72.9	10	71.4	29	76.3
文化人類学に関連する科目	7	70.0	12	85.7	7	50.0	26	68.4
文学に関連する科目	6	60.0	4	28.6	7	50.0	17	44.7
国際社会に関連する科目	1	10.0	9	64.3	5	35.7	15	39.5
生活に関連する科目	4	40.0	4	28.6	3	21.4	11	28.9
女性学に関連する科目	1	10.0	6	42.9	3	21.4	10	26.3
芸術に関連する科目	8	80.0	9	64.3	3	21.4	20	52.6
歴史に関連する科目	6	60.0	4	28.6	3	21.4	13	34.2
言語に関連する科目	6	60.0	0	0.0	0	0.0	6	15.8
考古学に関連する科目	3	30.0	0	0.0	0	0.0	3	7.9
地理学に関連する科目	6	60.0	0	0.0	1	7.1	7	18.4
宗教学に関連する科目	2	20.0	5	35.7	2	14.3	9	23.7
理系 (自然・環境・科学)								
環境	6	60.0	9	64.3	8	57.1	23	60.5
生物学	7	70.0	8	57.1	11	78.6	26	68.4
化学	7	70.0	10	71.4	9	64.3	26	68.4
科学	7	70.0	11	78.6	5	35.7	23	60.5
数学	6	60.0	7	50.0	3	21.4	16	42.1
生体学	0	0.0	3	21.4	0	0.0	3	7.9
物理学	7	70.0	6	42.9	7	50.0	20	52.6
地球	1	10.0	2	14.3	0	0.0	3	7.9
語学								
英語	10	100.0	14	100.0	14	100.0	38	100.0
ドイツ語	8	80.0	9	64.3	8	57.1	25	65.8
フランス語	8	80.0	5	35.7	6	42.9	19	50.0
中国語	8	80.0	7	50.0	10	71.4	25	65.8
韓国語	3	30.0	7	50.0	6	42.9	16	42.1
朝鮮語	3	30.0	0	0.0	0	0.0	3	7.9
日本語	4	40.0	1	7.1	2	14.3	7	18.4
ロシア語	5	50.0	1	7.1	1	7.1	7	18.4
スペイン語	5	50.0	4	28.6	2	14.3	11	28.9
ギリシャ語	2	20.0	0	0.0	0	0.0	2	5.3
ラテン語	2	20.0	0	0.0	0	0.0	2	5.3
イタリア語	2	20.0	0	0.0	0	0.0	2	5.3

科目は、「英語」100%（10校）、「ドイツ語」80.0%（8校）、「フランス語」80.0%（8校）、「中国語」80.0%（8校）であった。公立大学での上位3位の科目は、「英語」100%（14校）、「ドイツ語」64.3%（9校）、「中国語」50.0%（7校）、「韓国語」50.0%（7校）であった。私立大学での上位3位の科目は、「英語」100%（14校）、「中国語」71.4%（10校）、「ドイツ語」42.9%（8校）であった。

4) 情報、スポーツの科目について

情報、スポーツ科目の内容は、科目名は異なるが、全ての大学で開講されていた。

5) その他

上記には該当しない地域特性に視点をあてた科目をその他として分類した。科目名は、「A大学の風土と人々の生活」「信州学」「北海道の自然の文化」「愛媛の文化」、大学の理念が反映されている科目、「赤十字概論」「キリスト概論」などであった。

V. 考察

1. 基礎教育科目の開講科目と卒業要件

設置主体別に基礎教育科目の選択科目（単位）を比較した結果、国立、公立、私立大学の順に多かった。国立大学は、総合大学として複数の学部で構成されていることから、他分野の科目が開講され、広い分野からの学習を可能にしている。

私立大学では、基礎教育科目の選択科目（単位）が国立、公立大学と比較して少なく、基礎教育科目の選択要件が多い傾向にある。この理由として、大学によっては、基礎教育科目の中に専門教育科目が取り込まれており、基礎教育科目の選択要件は多いが、学生が実際に履修する科目は専門科目にシフトした内容になっているということが考えられる。国立大学、公立大学では、選択要件が少なく、あらかじめ決められた枠内での学習ではないため、幅広い分野から学習でき、豊かな人間性、高い知性が養いやすい教育環境であることがいえる。

本学において、基礎教育科目の必修科目、選択科目が多く、学生が求めれば学習できる教育環境が整えられている。しかし、基礎教育科目の選択科目を履修している学生は少ない。その理由として基礎教育科目の選択要件が低いことにより、単位取得のみを目的化していることが懸念される。

このことから、学生が基礎教育科目の意味を考えら

れるような工夫をする必要があり、そうすることで学生が主体的、創造的に学習する方法を身につけることが可能となると考えられる。

今回、履修状況まで分析を行っていないため、開講科目数（単位）と履修状況の関連については明らかにできなかった。今後はその関連性についても調査することで、より学生の現状が明らかになると考える。

2. 基礎教育科目の開講状況

基礎教育科目において、開講科目率の上位の人文社会系の科目は、「心理学」「哲学」「社会学」「倫理」の科目であり、理系の科目は、「生物学」「化学」「環境」であり、設置主体別で比較しても、その差はなかった。基礎教育科目は指定規則では、「科学的思考の基礎」と「人間と人間の生活の理解」に位置づけられており、そのことが反映されている結果であると読みとれる。

また今回の調査では、基礎教育科目の開講科目が占める割合は、人文社会系の科目が50.0%を占めていた。30年前に調査した金井ら⁶⁾の研究結果からも3年課程ではあるが文学や哲学の科目が多く、また小山ら⁷⁾の研究では、基礎教育機関が基礎教育科目の要検討教育内容として、「人間学、人間理解」に関する内容が多く挙げられたという結果からも、看護基礎教育において、人間性を養う科目を重要視していることがわかる。また、科目名は各大学で工夫されており、国立大学と比較すると私立大学ではバラエティーに富んでおり、大学の考えがカリキュラムに反映されていることが窺えた。

本学を含む私立大学では、国立大学と比較し、科目数が少ない傾向にある。横田⁸⁾は、看護基礎教育を担う大学において、思考力とそれを実践に移す行動力を培う教育の提供が求められ、それぞれの大学が対象となる学生の状況に応じた独自の教育を展開することが重要となると述べている。限られた教育体制の中で、何を看護基礎教育で学ばせるか、大学の理念に基づき科目を精選、工夫することで、独自性のカリキュラムの構築が可能となる。

研究の限界として、今回は44校を対象にした調査であり、看護系大学全体を反映したものではない。またシラバスより科目名のみで分類し、授業内容は追求していないため、重複している科目や対象外の科目に授業内容が盛り込まれている可能性は否めない。

Ⅵ まとめ

- 1) 国立大学、および総合大学は、全開講科目数、基礎教育科目(単位)の選択科目(単位)が多い。
- 2) 私立大学は、基礎教育科目の選択要件が高い傾向にある。
- 3) 看護系大学の開講科目は人文社会系が半分を占めている。
- 4) 科目名は、大学の理念、考えが反映されており工夫されていた。

謝辞

本研究において、シラバスを分析にするにあたり、快くシラバスの送付にご協力いただきました大学に感謝いたします。

文献

- 1) 文部科学省：中央教育審議会答申「学士力課程教育の構築にむけて」(2008)
- 2) 厚生労働省：看護基礎教育のあり方に関する歓談会論点の整理(2008)
- 3) 岩波浩美，定廣和香子，佐々木かほる他：看護系大学における安全管理に関する教育の現状—シラバスの記述内容の分析—。群馬県立県民健康科学大学紀要 3, 53-68 (2008)
- 4) 加古まゆみ，林千冬，中根薫：看護系大学における看護学教育学教育の現状とその課題—シラバス調査からの報告。看護教育 45, 868-874 (2004)
- 5) 吉田由美：4年制看護系大学における看護系科目の開講状況。順天堂医療看護学部 医療看護研究 1, 16-21 (2005)
- 6) 金井和子，吉田時子，西村千代子，田島桂子，伊藤暁子，麻生ナミエ，関根龍子：看護婦学校における基礎科目の教授状況に関する実態。厚生省看護研修研究センター 2, 27-42 (1978)
- 7) 小山真理子：看護基礎教育の改善に関する研究。総括研究報告書(2005)
- 8) 横田素美：「看護教育の大学化」提言のインパクト，「看護教育大学制への移行」私はこう思う。看護教育 49, 922-940 (2008)
- 9) 福良薫，坂上真理，青山宏，丸山知子：医学・看護・保健医療系大学における多文化医療関連科目実施状況に関する調査。札幌医科大学保健医療学部紀要 9, 47-51 (2008)
- 10) 中山洋子：看護基礎教育で何を学ぶのか，看護基礎教育を変える。看護展望 34, 15-19 (2009)
- 11) 立石俊宏：看護教育を豊かに 教員も一般教育科目の視点を持とう 看護教育における生活科学一般教養課程としての1つの試み。看護教育 36, 330-335 (1995)